

*パンの奇跡の意味をなかなか理解できない群衆に対してイエスは明らかにしようとされる。そのたびに彼らはつまづく。

彼らは言った。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうしていま彼は『わたしは天から下って来た』と言うのか。」(ヨハネ6:42) 自分たちはイエスの家族のことを良く知っている。同じ町で生活していたのだから、という。人としてのイエスしか認識がなく、イエスが神であるということはどうしても納得がいかなかったのである。彼らに対する主イエスの答え。「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられます』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。だれも父を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。」(6:44~46)

「わたしのところに来る」とは、「イエスを救い主と信じて救われる」ということである。父なる神とわたしは一つであって、父のみこころであなたがたは救われるということと言われる。

*ユダヤ人たちに更に衝撃が走る。イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。」(6:53~55) 人の子すなわちイエスご自身の肉を食べるだけでなく、その血を飲むことなど恐ろしいことであった。ユダヤの律法では「肉のいのちは血の中にあり、死はいのちそのものである」(レビ17:10~14)ので、その肉を食べ、血を飲まなければいのちがないなどといわれるイエスのことを到底信じることができなかったのである。

「これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」(6:58) 神がモーセを通して与えられたマナによってイスラエルの民は生き延びることができたが、食べてもいずれば死んだ、すなわちマナは永遠に生きるための食べ物ではなかった。勿論、主イエスは霊的なことを言っておられるのだが、私たちが日常生きるために食べたり飲んだりする表現によって主イエスと私たちが一体になることができると言われている。毎回の聖餐式で確認するように、イエス・キリストの十字架の犠牲によって私たちの罪が赦され、永遠のいのちが保証されている恵みを心から感謝したい。